

追憶のながの江戸

江戸は人びとの記憶のなかで どのような都市として 再構成されたのか——

〈追憶〉という行為は江戸時代に始まっていました。その代表的なジャンルである考証随筆をはじめ、近世・近代の小説や詩歌など、江戸にかかわる記述、すなわち人びとの記憶のなかで、江戸という都市はどのように再構成されたのでしょうか。そこで選ばれた対象、光が当てられた面はなんだったのか、反対に目を向けられなかったもの、側面とはなんだったのか。そこで再確認された〈江戸〉像、またそこに生きる／生きた人びとのアイデンティティとは、どのようなものであったのか。こうした問題について、多方面から探ってみたいと思います。



日時・場所

2019年 2月20日(水) 午後・21日(木) 午前・午後

法政大学市ヶ谷キャンパスゲート棟6階G602

千代田区富士見 2-17-1 最寄り駅：JR・地下鉄 飯田橋駅・市ヶ谷駅

事前申し込み不要

2月20日 13:00-17:30

真島 望 (成城大学・非) 菊岡沾涼著『本朝世事談綺』考—享保期江戸の風俗考証—
小林ふみ子 (法政大学) 大田南畝と武家故実家瀬名貞雄の考証
有澤知世 (国文学研究資料館) 山東京伝と元禄歌舞伎
神田正行 (明治大学) 馬琴の江戸地理考証
金 美真 (韓国外国語大学・非) 近世期の日本人と朝鮮人の目で見た〈江戸像〉

◇全体討論

2月21日 10:00-17:00

阿美古理恵 (国際浮世絵学会事務局) 考証随筆のなかの師宣と一蝶
佐藤 悟 (実践女子大学) 千年鉛をめぐる諸問題—柳亭種彦の考証随筆—
中丸宣明 (法政大学) 明治における考証随筆
合山林太郎 (慶応義塾大学) 近世・近代の漢詩文における江戸の〈名所〉と〈風景〉
出口智之 (東京大学) 近世絵入り文芸の残照—近代口絵・挿絵に残る江戸—
大塚美保 (聖心女子大学) 鷗外歴史叙述に見る〈江戸〉の座標系
関口雄士 (法政大学・院) 石川淳の〈江戸留学〉

◇全体討論



法政大学 江戸東京研究センター

〒102-0073 東京都千代田区九段北 3-2-3 九段校舎別館 1F

Tel : 03-3264-9682 Mail : edotokyo-jimu@ml.hosei.ac.jp

